

静岡県教育委員会教育長賞

## 家族の一員

静岡市立竜爪中学校

二年 森 下 桃花

「むぎが歩けなくなる？むぎが死んじゃうかも。」と私が絶望的な気持ちにさせられたのは今年の春でした。むぎとは、私が飼っているダックスフンドで彼女の名前は「こむぎ。」生後二ヶ月の頃、私の家にやってきました。皆から「むぎ」と呼ばれ、家族は帰宅すると誰よりも先にむぎの所へ行く、我が家のアイドルです。その日から今まで、ずっと病気も怪我もなく毎日楽しく過ごしてきました。しかしある日から、リビングにある座布団の上に寝てあまり動かなくなってしまうました。前にもこのようなことがありましたが、すぐに元気になったので大丈夫かと思っていました。でも今回は、本当につらそうで見えてとても心配になりました。言葉でしゃべれないので、むぎの言いたいことを理解するのは難しかったです。でもむぎが私の方を悲しそうな目で見て「クーンクーン。」と鳴くので、とても辛いのはわかります。すぐに近くの獣医科で診てもらったら「ヘルニア」で精密検査が必要、場合によっては手術だと言われました。私は大丈夫なのか心配で不安の気持ちでいっぱいでした。島田の病院を紹介され、すぐに連れて行きました。や

はり手術になり、その日の夕方緊急手術をしてもらいました。留守番だった私は、手術が無事に終わるまで不安で家の中を行ったり来たり、とてもそわそわしていました。そんな中「成功しました。」と連絡が入り私は、ほっとしました。心の底から「成功してよかった。」と思いました。

しかしここからが、私にとって辛くて淋しい毎日の始まりでした。むぎが家に帰ってこられるまで約二週間程。悲しい時も辛い時も、いつもむぎは私の心をいやしてくれました。会話は出来ないけれど、むぎは私の気持ちを分かってくれ、私に頑張れと言ってるように聞こえました。その存在がいなかったため、とても淋しい毎日が続きました。私が帰宅してもおかえりと迎えてくれるむぎがいなのは、こんなにも淋しいものだと思えていませんでした。十日程経ち退院になりました。やっと会えると心の底から嬉しかったです。どれ位歩けるようになってるか心配だったけれど、それは一瞬で吹き飛びました。むぎは元気にしっぽを振り、自分で歩いて私の所に来ました。そんなむぎを見て私は涙が出るほど嬉しかったです。

私はこの経験を通して、むぎの存在の大きさに気づかされました。むぎは毎日、私だけでなく家族みんなの心をいやしてくれているのだと思いました。家族の一員になってから五年、むぎはいて当たり前存在になっていたけれど、今回のことではないとどれだけ淋しいか気づかされました。そしていつも一緒

にいてくれ「ありがとう。」と感謝の気持ちでいっぱいになりました。むぎの存在が自分にもこんなに大きく影響していたと  
思うとその命は、とても尊いとわかりました。家族の一員である  
こむぎをこれからも大切に感謝したいです。

